

【目次】

はじめに

第1章 落語で脳が喜ぶわけ・総論編

- ・落語は聞き手の想像に委ねる芸である ～少ない情報が脳を鍛える～
- ・落語の「見立て」で抽象化能力を鍛えよう
- コラム① 若旦那も泥棒も想像力がたくましい
- ・噺の理解に不可欠な記憶 ～ワーキングメモリ～
- ・落語家のしぐさや表情を読むことで社会的認知能力が磨かれる
- コラム② そばを手繰るしぐさを見ると、なぜそばが食べたくなるのか
- ・抑えた芸に触れることで身につく力とは
- ・落語の「語り」が日本人の情動認知力を育てる
- コラム③ ライブへ行こう ～「生の落語」が違うわけ～
- ・落語も人生も「間」がすべて
- ・落語における「笑い」の効用
- ・落語のリズムがお口の虚弱を防ぐ

第2章 “脳が喜ぶ”落語・各論編

- ・行き過ぎた「正義」は毒になる？
—『後生鰻』『三方一両損』から学ぶ自制力の重要性—
- ・相手の立場に立てば見えてくるものもある
—『一眼国』『祇園会』から学ぶ相対化力の身につけ方—
- ・先入観を捨てた先に新しい発見がある
—『頭山』『猫の皿』から学ぶ発想力の源泉—
- ・まあまあでいいじゃないか
—『百年目』から学ぶ寛容力の育て方—
- ・口ぐせで世界は変わる
—『のめる』から学ぶ言葉の力—
- ・世の中楽しんだ者勝ち
—『四段目』から学ぶ満喫力—
- ・相手に勝ちを譲ることができますか？
—『安兵衛道場破り』『佐野山』から学ぶ負ける力—
- ・困った時には人に頼ってしまえ
—『淀五郎』から学ぶ受援力—
- ・良いも悪いも考え方次第
—『お化け長屋』から学ぶポジティブな解釈力—
- ・無駄なことは無駄じゃない？
—『あくび指南』から学ぶ無駄力—
- ・ままならない世の中を生き抜くためには
—『長屋の花見』『安兵衛狐』から学ぶ自己許称能力—
- ・戦うだけが能じゃない
—『岸柳島』『夢金』から学ぶにげる力—
- ・「孤独は痛い」って知っていますか？
—『笠碁』から学ぶつながる力—
- ・独創性はまねから生まれる
—『牛ほめ』から学ぶまねる力—

ブックリスト 手にとって読みたい落語本三百選

- 「落語」がどのように、認知能力の向上や脳機能の維持に役立つのか、具体的な事例にその効用を平易に述べた読み物です。
- 第1章では、総論編として想像力・認知力・笑いなどユーモアの観点から「脳が喜ぶ落語」について書かれ、第2章ではさまざまな「噺」に基づく効能について紹介しています。
- 本の後半では、おすすめ図書としてわかりやすい入門書等を収録。落語を学ぶ・調べるためのブックガイドとしても使用できます。



結城俊也 編著 A5・300頁

定価6,600円（本体6,000円＋税10%）

ISBN978-4-8169-3056-0 2025年6月刊行

落語に学ぶ人生の処方

“脳が喜ぶ” 想像・認知・ユーモア

編著者プロフィール・内容見本は裏面をご覧ください

202505

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

注文書

落語に学ぶ人生の処方
— “脳が喜ぶ” 想像・認知・ユーモア

定価6,600円（本体6,000円＋税10%）
ISBN978-4-8169-3056-0

冊

取扱書店



9784816930560

内容見本

先入観を捨てた先に新しい発見がある
—『頭山』『猫の皿』から学ぶ発想力の源泉—



©福田紀子

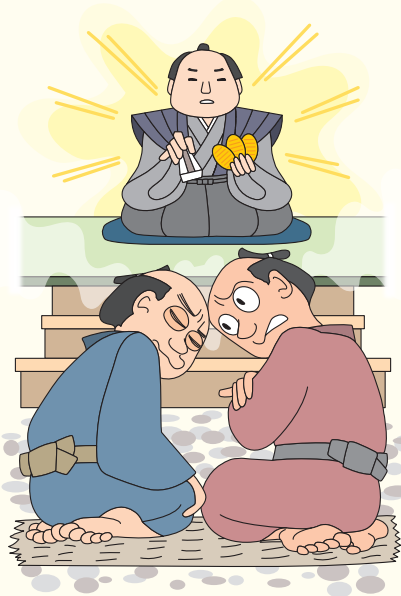
◆頭山（あたまやま）

ある日のこと、ケチの吝兵衛^{けちべゑ}さんは、落ちていたサクラランボを種ごと食べてしまいました。翌朝、目をさますと、頭の上から桜の木が生えているではありませんか。せっかく芽吹いたのだからとそのままにしておくと、やがて見事な花を咲かせました。すると世間で評判となり、多くの人が押し寄せて、吝兵衛さんの頭の上で飲めや歌えやの大騒ぎを始めました。

吝兵衛さん、あまりのうるささに桜の木を引っっこ抜いてしまいます。するとそこ

◀行き過ぎた「正義」は毒になる？

—『後生鰻』『三方一両損』から学ぶ自制力の重要性—



©福田紀子

◆三方一両損（さんぼういちりょうぞん）

ある日のこと、神田白壁町の左官職人、金太郎は財布を拾います。中には三両の金と印鑑、そして書き付けが入っており、持ち主は大工の吉五郎だとわかりました。金太郎はこの財布を届けてやろうと思い、吉五郎の住む長屋にやって来ました。中に入って財布を差し出すと、吉五郎は「自分の懐^{ふとろ}を勝手に飛び出したような金は要らない」と言いつて受け取りません。二人は受け取れ、受け取れないの言い合いを始め、ついには殴り合いの喧嘩になってしまいました。

そこへ大家が現れ、吉五郎を諭します。親切に届けてくれたのに殴りかかるとは何事だと叱りますが、吉五郎は聞く耳を持ちません。…（中略）

この斬、最後は大岡裁きで一件落着となりますが、もし仲裁してくれる人がいなかったらどうなってしまうのでしょうか。二人の喧嘩はエスカレートし、どこまでいっても決着がつかないかもしれません。八五郎には八五郎の「正義」が、そして金太郎には金太郎の「正義」があります。互いに一歩も譲らずに自分の「正義」を主張し合っていたら、どこまでいっても平行線をたどるばかりでしょう。

【編著者プロフィール】

結城俊也（ゆうきとしや）

23年間にわたり千葉中央メディカルセンターに勤務。現在、都内の障害者施設に勤務しながら、図書館等において医療健康講座を開催している。専門理学療法士（神経）、介護支援専門員、博士（医療福祉学）。（一社）日本認知症予防学会会員。著書に、『認知症予防におすすめ図書館利用術3—「調べる力」で脳を活性化』（日外アソシエーツ、2019）、『医療福祉のプロがすすめる 孤独・社会的孤立・つながりを考える1000冊』（日外アソシエーツ、2020）など。共編に『リハビリのプロがすすめる 健康寿命を延ばす1000冊』（日外アソシエーツ、2018）などがある。